

出席：濱名、笠島、山岸、長縄、依田、濱村、福島、市田、木村、高橋
 (職員：藤井、宮崎、喜多、村杉、古川)
 欠席：宮島教育長、川内谷、斉藤、佐藤均、白川、工藤、西川、松村、関口

	【第3回学校運営協議会】18:00~19:15	備考
校長	1 校長挨拶	
	・校長よりスライドによるこれまでの学校運営について、次年度以降に仮内定を受けている全国募集の取り組みに対する現状と道内各校の現状について説明	
教頭	2 令和6年度のこれまでの取り組み紹介	
	1) 報道掲載記事の紹介・説明	
	2) 学校評価アンケート集約結果について	
	・教頭より説明	
教頭	3 4部会におけるこれまでの活動の振り返り	
	(1) 広報・評価部会：	
CS委員	○今年度の実施内容について報告(別紙：広報・評価部会資料のとおり)	
CS委員	・学校評価については、少しでも松前高校の魅力が伝わるものにしていく必要はあるが、今回のアンケートの実施方法・内容・まとめ方については、概ね妥当なものとなっている。	
CS委員	・学校説明会・見学会等については、松高生やOBやOGなど卒業生の力を借りると効果的な内容となるのではないだろうか。	
CS委員	・学校評価アンケートの目的を考えると広報的な役割ではないので、広報的な役割を考えるならば、松前学や学校行事などの取り組みを周知する広報誌などを配布することが適当であり、その取り組みがどうであったかを学校評価していただくことが望ましいのではないだろうか。	
CS委員	・働き方改革や業務の効率化を考えるならば、今回のアンケートと同時に広報まつまへのデータを再配布したりすること等も良い取り組みではないだろうか。また、広報がどこまで行き届いているかのデータを取っておくことは後々生きてくることが多くあるので、今回のようなアンケートも有効な取り組みであると言える。	
CS委員	・全国募集の取り組みが進められているが、社会的な動きとして授業料無償化が進むことにより、取り組みの逆風になるのではないだろうか。	
CS委員	・中学生においては、進路を考える時に「漠然と函館を希望する」生徒が多くいることは中々避けられない現状であり、その方向性を変えることは難しい現状にある。また、函館市内の私立高校においては、募集に係る広報に業者を入れるなど力を入れているので、広報の面で私立高校と同様の活動をしていくことは難しいと考えられる。	
CS委員	・小中学生の情報源やネット環境は、教職員や保護者よりも高校生が一番状況を把握しているはずなので、学校の情報源をSNSにどのようにあげていくかを考える時に意見をもらうことが有効な取り組みにつながるのではないだろうか。	
本校職員	(2) 松前学部会	
本校職員	・SX 報告会についての情報共有	
本校職員	松前高校は、広報班のデジタルマップ作成について発表した。来年度は、全グループに、地域の大人が関わって活動することを計画している。また、一緒に探究活動をしてくれる方を募集している。	
本校職員	・次年度の探究活動について	
本校職員	来年度1年生から、探究活動が週2コマになる。(年35時間から70時間に増加。探究に使える時間が2倍に増える。)今年度の反省を踏まえ、1年生はテーマをある程度教員で考えて探究活動を行う。その中で、地域の課題解決に、地域の方と一緒に取り組むことを目指す。(例：再エネ、海外向け観光、地産地消、ふるさと納税、LINE活用など)	

本校職員	<p>・郷土料理について</p> <p>松前高校の事情：現在、家庭科の教員がいない。家庭科の授業は、南茅部高校の先生に遠隔授業をしていただいている。家庭科の9時間程度の中で、ニオ採取、塩漬け、イカめし作り、クジラ汁作りを行っている。次年度は、Tbaseという、札幌の学校からの配信に切り替わるため時数の確保が困難である。また、実習費の高騰が懸念される。</p> <p>松前高校の要望：次年度は、1年生で地産地消グループを作成し、年間70時間で郷土料理探究を行いたい。しかし、そうしてしまうと、そのグループの生徒は深く探究できるが、一方で一部の生徒しか郷土料理に触れる機会がなくなってしまう。広く郷土料理に触れる機会を設けたい。</p>
CS 委員	<p>改善グループは、町のスマイル補助金を活用し、高校生も参加する郷土料理のイベントを企画している。</p>
本校職員	<p><まとめ></p> <p>次年度は、1年生で地産地消・郷土料理グループを作成し、郷土料理、アレンジ料理、地域の食材を生かした料理に関する探究活動を行う。講師を改善グループの皆様や、濱村さんに紹介していただく、センチュリーマリーナ函館の調理師の方をお願いする。その成果について、7月の学校祭、1月または2月に行う、農業村改善グループの食事提供会で提供する。学校祭では、スマイル補助金を活用し、無料または低価格で提供することによって、小中学生が来校するきっかけを作り、高校生が郷土料理に触れる機会とする。（キッチンカーを呼んでいるので、そちらの収益低下につながらないように、品目や量について検討する必要がある。）1、2月には、改善グループの食事提供会に高校生も参加させていただく。その際に、探究グループの生徒以外の高中生や、小中学生に制作の声かけを行う。（小学生は高学年、保護者同伴、調理方法の安全性の検討が必要）また、提供会の参加についても広く呼びかけることによって、小中高の交流の場、郷土料理について良さを認識する場にしていく。探究活動は、次年度も続くので、次年度はさらに考案した料理を別の機会を提供することや、地域の飲食店と協力し、地域グルメ、高校生の考案レシピをして提供していただくことなども考えられる。</p>
本校職員	<p>（3）国際理解教育部会</p> <p>○意見交流</p>
CS 委員	<p>・今年度の国際理解教育として、貿易ゲーム、フランス語出前授業、JICA 出前授業、留学生事業、フランス派遣を実施した。フランス語出前授業については、フランス語を教えることが中心となり、生徒が楽しめる雰囲気ではなかった。次年度は出前授業の選定方法を見直し、生徒の印象に残る内容を取り入れたい。</p>
CS 委員	<p>・外部講師の活用については、ヨーロッパ文化に詳しい講師を招くことが一案として考えられる。また、フランス派遣と関連付けたフランス語の授業も有効だが、それだけでは関心が限定されるため、より分かりやすく文化や言語のつながりを伝えられる講師が望ましい。</p>
CS 委員	<p>・留学生事業については、現状の取り組みは評価できるが、国籍を問わず多様な文化的背景を持つ留学生との交流機会を増やすことが今後の課題となる。例えば、アフリカ出身の留学生との交流を通して、国籍や肌の色が自分たちとは異なっても、同じ「人間」であり、思っていることを共有できるということを知り、これまで自分たちが持っていた先入観を払拭するような「学びの機会」を設けることが望ましい。</p>
CS 委員	<p>・「すごいものを見た」という新聞記事を読んだが、同様のものは函館でもレプリカだが見ることができる。このように、近隣で見学可能なものもあるため、学校単位で事前学習として見学を実施出来るような取り組みを検討するのも有効である。</p>
本校職員	<p>（4）書道教育部会</p> <p>○意見交流</p>
CS 委員	<p>・学校・書道科としての取り組みとして、小学校との連携授業を行いました。</p> <p>・来年度も継続して、小学生と高校生とのかかわりの機会を増やしていけるといいと思います。</p>
CS 委員	<p>・小中保護者アンケート内の、「松前学や書道が嫌いな生徒は松高には行かない」という記述で、書道が嫌いにならないような小中学校の取り組みも大切ですよ。</p> <p>・小中高校で改めて目的・目標を確認して、技術力の向上ではなくて、人格形成に主眼を置いた書道科教育の意識づけが改めて必要ですよ。</p>
本校職員	<p>・町内で部活動の地域移行について話し合いが行われていますが、書道は可能でしょうか？</p>

CS 委員	・書道塾的なものではなくて、町民に開かれた書道講座という形で小中高校も参加可能な書道クラブを作ってもよいかもしれない。町内で唯一組織的に小中高がつながっているのも書道の強みのため、今後検討してもよいかもしれないですね。	
笠 島	4 本日のまとめとして CS 会議のまとめとして御挨拶をいただきました。	